第2回 実戦（続き） 4/13（月）

きではないと考える

イ　定期的に展示物を点検したり修復したりすると多くの費用がかかるだろうと危惧している

ウ　それが子どもの頃に習った展示物の見方とは全く違っている

エ　それが子どもの頃に教えられた展示物の見方である

正解は**ウ**。ジャクソン氏は3回目の発言の中で「私たちは子どもの頃からずっと，貴重な文化財には手を触れないようにと言われてきました（We've been told not to touch precious cultural assets since I was a child.）」と言っている。さらに続けて，「新しいやり方はそれとは大違いですよね（The new style is poles apart from that.）」と発言している。**poles apart は「全くかけ離れて」**という意味である。この部分が理解できなくても，Part B の中でディクソン氏が説明している「新しい方式の展覧会」の特徴を理解していれば，ここでジャクソン氏が言っている「子どもの頃に習った展示物の見方」と全く違うことは明らかである。したがってウが正解となる。

アについては，「子どもの来館者」に限って展示物に触れることの是非を論じる発言はしていないので不可。イについては，修復費等の費用を心配する発言はしていないので不可である。

(3) **「議論の中でミルズ教授は次のように発言している。あなたに聞こえた言葉をその通り使って空所を埋めなさい」**

正解は，Let me answer that question, too. Certainly **that used to be the way we treated** exhibits — to stand back and observe. の太字部分。［放送内容］を参照のこと。

(4) **「ディクソン氏は今日の美術館は…べきだと言っている」**

ア　地域社会ともっと密接なつながりを持つ

イ　文化財にどのようにお金を使うかについてもっと慎重になる

ウ　文化財を保存する際にもっと責任を持つ

エ　地域の人々の教育にもっと責任を持つ

正解は**ア**。ディクソン氏は3回目の発言の中で，美術館が果たすべき「多面的な役割」について語り，「地域社会の一部としてもっと地域にしっかり統合されるようになるべきですし，その文化財を地元の人々と分かち合うべき（The City Museum should become a more integral part of the community and share its treasures with local people.）」と発言している。発言の趣旨に最も近いアが正解である。

(5) **「ウォーカー氏の提案は…可能性が高い」**

ア　市に採用される

イ　諮問委員会に支持される

ウ　諮問委員会に却下される

エ　市に検討される

正解は**エ**。バートン織の講習会を提案したウォーカー氏に対し，市の責任者のディクソン氏は，市がいくつかの講習会を主催する意図を持っていることを述べた上で，「ウォーカーさんのご提案も検討することをお約束します（I promise your suggestions will be considered.）」とはっきり言っているのでエが正解である。

「検討」しても「採用」されるとは限らないので，アは不可である。

4 (A)

(1) of	(2) them	(3) because
(4) from	(5) do	（各1点）

［出典］ Joseph Stiglitz : *Making Globalization Work*
（問題作成のためのやむを得ない事情から，省略・改変した箇所があります）

［全訳］

グローバル化は不可避であり，その欠点と共にひたすら受け入れざるを得ないと言う人がいる。だが，世界の大部分が民主主義社会の中で暮らしていくようになるにつれ，もしグローバル化がほとんどの人の利益にならないようなら，彼らは最終的に反発することになろう。彼らをしばらくの間だますことは可能だ。今日はまだ痛みを伴うが，利益はもう目の前だという話をしばらくの間は信じてくれる。しかし，25年以上も経てば，そのような話は信憑性を失う。グローバル化は以前反転したことがある。第一次大戦後，地球規模の経済統合は失速したが，そのような事態は再び起こりうるのだ。すでに世界ではグローバル化に対する反感が生まれ始めている。グローバル化の最大の恩恵を受けている国においてさえそうだ。インド，中国，ドバイの企業が先進国の会社を買収しようと試みようとして抵抗を受けていることを見ればわかる。

今日，グローバル化の問題の多くは我々自らが招いたものであり，グローバル化の進め方の結果生じたものであると認識されている。特にヨーロッパで債務免除を求める大きな動きが出ていること，ほとんどの先進工業国

の指導者たちがより公平な貿易の枠組みを求め，地球温暖化への対策を打ち出し，2015年までに貧困を半分にすると明言している姿を見ると，私は勇気づけられる。だが，美辞麗句と現実の間には隔たりがある。これらの指導者の多くは，自らが治める民主主義国家の国民の先頭に立ってこれらの崇高な目標を達成しようという態度を明確にしているかもしれないが，ただし自分の損にならない限り，という条件付きなのである。

[設問解説]

(1) 正解は **of**。確かに "a quarter of ..." で「…の4分の1」という意味の表現は存在する。だが，これを使って「1世紀の4分の1」と表現する場合は a quarter of **a** century としなければならない。本文では century に a がついていないため誤りである。quarter には形容詞的な使い方があるので，a **quarter** century とするのが正しい。(例) a **quarter** million dollars [= **a quarter of a** million dollars] (25万ドル)

(2) 正解は **them**。直訳すればわかると思うが，"have met them with resistance" を「彼らに抵抗感を持って会う」と解釈したのでは全く要領を得ない。meet には meet with ... で「…を受ける」という意味の慣用句があるので，これならば「抵抗を受ける」で意味が通る。

(3) 正解は **because**。"of one's own making" で「自らが招いた」という意味の慣用句。

(4) 正解は **from**。一見すると，themselves の直後にある to と合わせて "from A to B" と解釈できるように思える。この表現は何かの範囲を具体的に指し示すものである。仮にこの表現が正しいとすると，「地球温暖化への対策を打ち出し，態度を明確にすることから，2015年までに貧困を半分にすることに至るまで」という解釈になる。ところが，from の直前にある「ほとんどの先進工業国の指導者たちがより公平な貿易の枠組みを求めているのを見ると」という内容を考えると，これらが「公平な貿易の枠組みを求める」ことの具体的な範囲を示しているとはとても解釈できない。from を削除すれば，calling / doing / committing という3つの現在分詞が並列され (A, B, and C の形)，「ほとんどの先進工業国の指導者たち」がとっている行動を示すことになるので，内容的に理解可能になる。

(5) 正解は **do**。"do so" (そうする) には何の問題もないように見えるが，その直後の "long as it does not cost them anything" が英語として成り立たなくなる。do を削除すれば "but only so long as it does not cost them anything" となり，接続詞 so long as (…である限り) が浮かび上がってくる。ちなみに，long を削除して "but only do so as it does not cost them anything" とすれば，〈do so + as 節〉という形になり，やはり正解ではないかと考えたかもしれないが，これは誤り。下線部(5)の but only 以前の部分に登場する「動詞」は "there is a gap" "many of these leaders are ahead of the people" "may be fully committed" とすべて be 動詞だが，be 動詞を "do so" で指すことはできないからである。

きではないと考える

イ　定期的に展示物を点検したり修復したりすると多くの費用がかかるだろうと危惧している

ウ　それが子どもの頃に習った展示物の見方とは全く違っている

エ　それが子どもの頃に教えられた展示物の見方である

正解は**ウ**。ジャクソン氏は3回目の発言の中で「私たちは子どもの頃からずっと，貴重な文化財には手を触れないようにと言われてきました（We've been told not to touch precious cultural assets since I was a child.）」と言っている。さらに続けて，「新しいやり方はそれとは大違いですよね（The new style is poles apart from that.）」と発言している。**poles apart は「全くかけ離れて」**という意味である。この部分が理解できなくても，Part B の中でディクソン氏が説明している「新しい方式の展覧会」の特徴を理解していれば，ここでジャクソン氏が言っている「子どもの頃に習った展示物の見方」と全く違うことは明らかである。したがってウが正解となる。

アについては，「子どもの来館者」に限って展示物に触れることの是非を論じる発言はしていないので不可。イについては，修復費等の費用を心配する発言はしていないので不可である。

(3) **「議論の中でミルズ教授は次のように発言している。あなたに聞こえた言葉をその通り使って空所を埋めなさい」**

正解は，Let me answer that question, too. Certainly **that used to be the way we treated** exhibits — to stand back and observe. の太字部分。［放送内容］を参照のこと。

(4) **「ディクソン氏は今日の美術館は…べきだと言っている」**

ア　地域社会ともっと密接なつながりを持つ

イ　文化財にどのようにお金を使うかについてもっと慎重になる

ウ　文化財を保存する際にもっと責任を持つ

エ　地域の人々の教育にもっと責任を持つ

正解は**ア**。ディクソン氏は3回目の発言の中で，美術館が果たすべき「多面的な役割」について語り，「地域社会の一部としてもっと地域にしっかり統合されるようになるべきですし，その文化財を地元の人々と分かち合うべき（The City Museum should become a more integral part of the community and share its treasures with local people.）」と発言している。発言の趣旨に最も近いアが正解である。

(5) **「ウォーカー氏の提案は…可能性が高い」**

ア　市に採用される

イ　諮問委員会に支持される

ウ　諮問委員会に却下される

エ　市に検討される

正解は**エ**。バートン織の講習会を提案したウォーカー氏に対し，市の責任者のディクソン氏は，市がいくつかの講習会を主催する意図を持っていることを述べた上で，「ウォーカーさんのご提案も検討することをお約束します（I promise your suggestions will be considered.）」とはっきり言っているのでエが正解である。

「検討」しても「採用」されるとは限らないので，アは不可である。

4 (A)

(1) of	(2) them	(3) because
(4) from	(5) do	（各1点）

［出典］ Joseph Stiglitz : *Making Globalization Work*
（問題作成のためのやむを得ない事情から，省略・改変した箇所があります）

［全訳］

グローバル化は不可避であり，その欠点と共にひたすら受け入れざるを得ないと言う人がいる。だが，世界の大部分が民主主義社会の中で暮らしていくようになるにつれ，もしグローバル化がほとんどの人の利益にならないようなら，彼らは最終的に反発することになろう。彼らをしばらくの間だますことは可能だ。今日はまだ痛みを伴うが，利益はもう目の前だという話をしばらくの間は信じてくれる。しかし，25年以上も経てば，そのような話は信憑性を失う。グローバル化は以前反転したことがある。第一次大戦後，地球規模の経済統合は失速したが，そのような事態は再び起こりうるのだ。すでに世界ではグローバル化に対する反感が生まれ始めている。グローバル化の最大の恩恵を受けている国においてさえそうだ。インド，中国，ドバイの企業が先進国の会社を買収しようと試みようとして抵抗を受けていることを見ればわかる。

今日，グローバル化の問題の多くは我々自らが招いたものであり，グローバル化の進め方の結果生じたものであると認識されている。特にヨーロッパで債務免除を求める大きな動きが出ていること，ほとんどの先進工業国

の指導者たちがより公平な貿易の枠組みを求め，地球温暖化への対策を打ち出し，2015年までに貧困を半分にすると明言している姿を見ると，私は勇気づけられる。だが，美辞麗句と現実の間には隔たりがある。これらの指導者の多くは，自らが治める民主主義国家の国民の先頭に立ってこれらの崇高な目標を達成しようという態度を明確にしているかもしれないが，ただし自分の損にならない限り，という条件付きなのである。

[設問解説]

(1) 正解は **of**。確かに "a quarter of ..." で「…の4分の1」という意味の表現は存在する。だが，これを使って「1世紀の4分の1」と表現する場合は a quarter of **a** century としなければならない。本文では century に a がついていないため誤りである。quarter には形容詞的な使い方があるので，a **quarter** century とするのが正しい。**(例)** a **quarter** million dollars [= **a quarter of a** million dollars] (25万ドル)

(2) 正解は **them**。直訳すればわかると思うが，"have met them with resistance" を「彼らに抵抗感を持って会う」と解釈したのでは全く要領を得ない。meet には meet with ... で「…を受ける」という意味の慣用句があるので，これならば「抵抗を受ける」で意味が通る。

(3) 正解は **because**。"of one's own making" で「自らが招いた」という意味の慣用句。

(4) 正解は **from**。一見すると，themselves の直後にある to と合わせて "from A to B" と解釈できるように思える。この表現は何かの範囲を具体的に指し示すものである。仮にこの表現が正しいとすると，「地球温暖化への対策を打ち出し，態度を明確にすることから，2015年までに貧困を半分にすることに至るまで」という解釈になる。ところが，from の直前にある「ほとんどの先進工業国の指導者たちがより公平な貿易の枠組みを求めているのを見ると」という内容を考えると，これらが「公平な貿易の枠組みを求める」ことの具体的な範囲を示しているとはとても解釈できない。from を削除すれば，calling / doing / committing という3つの現在分詞が並列され (A, B, and C の形)，「ほとんどの先進工業国の指導者たち」がとっている行動を示すことになるので，内容的に理解可能になる。

(5) 正解は **do**。"do so" (そうする) には何の問題もないように見えるが，その直後の "long as it does not cost them anything" が英語として成り立たなくなる。do を削除すれば "but only <u>so long as</u> it does not cost them anything" となり，接続詞 so long as (…である限り) が浮かび上がってくる。ちなみに，long を削除して "but only do so as it does not cost them anything" とすれば，〈do so + as 節〉という形になり，やはり正解ではないかと考えたかもしれないが，これは誤り。下線部(5)の but only 以前の部分に登場する「動詞」は "there <u>is</u> a gap" "many of these leaders <u>are</u> ahead of the people" "may <u>be</u> fully committed" とすべて be 動詞だが，be 動詞を "do so" で指すことはできないからである。

4 (B)

(1) 科学技術を学生と学習にさらに関連したものにしようとする多くの努力が，アメリカ合衆国中で進行中である。 (4点)

(2) 教育面での，未来の科学技術になるだろうと一部の人が予測しているもの，すなわち手で持てるコンピュータを，書くことを容易にするために7年生が用いている。 (5点)

(3) ＰＣマガジンは，コンピュータを学校の中に持ち込むために過去10年間で費やされた50億ドルのうちで，17パーセントが，教師にコンピュータの使い方と，それらをカリキュラムに融合させるやり方を教えるために用いられたと報告している。 (6点)

[出典] Victoria Irwin : *Hop, Skip ... and Software?*
(問題作成のためのやむを得ない事情から，省略・改変した箇所があります)

[全訳]

アメリカ合衆国の学校や家庭では，コンピュータテクノロジーは人生における避けがたい現実となっている。2000年の秋には，公立学校の98パーセントが学校内でインターネットを利用したが，これは6年前の35パーセントを凌ぐものであり，また公立学校全体では，5人に1人の学生がコンピュータを利用していた。国立教育統計センターによれば，今日8年生の80パーセントが家庭でコンピュータを利用している。国家予算が逼迫しているにもかかわらず，テクノロジーを学生および学習教育にさらにいっそう関連したものにしようとする多くの努力が，アメリカ合衆国の至る所で進められている。メイン州では，7年生の1人1人がラップトップ型コンピュータ [ノートパソコン] を所有している。バー

ジニア州シャーロッツビル市にあるウォルトンミドルスクールでは，書くことを促進させる目的で7年生が使用しているのは，未来の教育テクノロジーになると一部の人が予測しているもの，すなわち手のひらサイズのコンピュータである。

だがコンピュータの利用法は，非常に多種多様である。ミシガン大学 Hi-CE のエリオット・ソロウェイが昨年4千の学校を調査してわかったことは，公立学校の学生の65パーセントは，コンピュータを使ってインターネットの利用に要した時間が週15分に満たないということであった。ＰＣマガジン誌の記事によれば，コンピュータを学校に導入するために過去10年間で費やされた50億ドルのうち，教師にコンピュータの使い方を教え，またコンピュータと教育カリキュラムを一体化するやり方を教える目的で用いられたのは，その17パーセントである。そういったことは，学校でコンピュータを用いることは学生にとってプラスになることなのか，あるいは金のかかる体裁づくりにすぎないのかといった論議の核心を突く事実なのである。

[設問解説]

(1)

1. **many efforts are under way**「多くの努力が進行中である」

be under way で「〈計画・努力・作業などが〉進行中である；動き出している；始まっている」という意味を表す。

2. **throughout the country**「アメリカ合衆国中で」

the country（その国）とは，もちろん合衆国を指す。

3. **to make technology even more relevant to students and learning**「科学技術を学生（たち）と学習にさらに［いっそう］関連したものに（しようと）する〈努力〉」

to make は efforts を修飾する形容詞用法だが，「目的」を表す副詞用法ととって，「…にさらに関連したものにするために〈多くの努力が進められている〉」と訳してもかまわない。

make technology ... more relevant は「make + O + C（OをCにする）」の形。

even は「さらに；いっそう；ずっと」の意で，比較級を強調している。

(be) relevant to ... で，「…に関連している；…に適切［妥当］である」という意味を表す。

(2)

1. **seventh-graders are using**〈...〉「7年生が〈…を〉使用している」

アメリカ合衆国の seventh-graders は，日本ではふつう「中学1年生」に相当するので，そのように訳してもよい。

2. **what some predict will be the educational technology of the future — handheld computers**「教育面での，未来の科学技術になるだろうと一部の人が予測しているもの，すなわち手で持てるコンピュータ」

what から future までは，are using の目的語として働く名詞節。what は関係代名詞。節内の構造は，what (S) will be (V) the educational technology of ... (C) で，what と will be の間に some predict という「S + V」が割り込んだ形。「Some predict X will be the educational technology of ...（一部の人は，Xが教育面での未来の科学技術になるだろうと予測している）」のXが what に変わり，節の先頭に立ったものと考えればよい。

handheld computers は what 節と同格の関係。handheld は「手で持てる［手のひらに乗る］（大きさの）」の意の形容詞。

3. **to facilitate writing**「書くこと［執筆］を容易にするために」

to facilitate は「目的」を表す副詞用法で，are using を修飾。facilitate ...「…を容易に［楽に］する；…をやりやすくする；…を促進［助長］する」

(3)

1. ***PC Magazine* reports that**〈...〉「PC Magazine（ＰＣマガジン誌）は〈…〉ということを報告している」

that 以下文末までは接続詞 that のまとめる名詞節で，reports の目的語として働いている。

2. **of the five billion dollars spent in the past decade to get computers into schools**「コンピュータを学校の中に持ち込むために，過去10年間で費やされた50億ドルのうち（で）」

この部分は，that 節のＳ＋Ｖの前に置かれた副詞句。of ... は「…のうち［中］で」の意。

spent は the ... dollars を後置修飾する，形容詞用法の過去分詞。

to get は「目的」を表す副詞用法で，spent を修飾。

3. **seventeen percent was used to teach teachers how to use the computers**「〈…のうち（で）〉17パーセントが，教師にコンピュータの使い方を教えるために用いられた」

seventeen percent was used が，that 節の中心のＳ＋Ｖ。

teach + O + how to－で，「Oに－するやり方を教

える」という意味を表す。

4. **and how to integrate them into the curriculum**
「(そして) コンピュータをカリキュラムに融合させるやり方〈を教師に教えるために〉」

and は，how to use ... と how to integrate ... をつないでいる。

integrate A into B「AをBに溶け込ませる；融合させる」

5

(1) エ (1点)
(2) ア (1点)
(3) イ (1点)
(4) 2番目：best　5番目：do (完答で2点)
(5) 母親が服を黒く染めるのに失敗するにちがいないと思ったから。(29字) (2点)
(6) ア (1点)
(7) her (1点)
(8) 彼女は母親の化粧が流れてしまったので少し顔色が悪く見えた。 (3点)
(9) ウ (1点)
(10) エ (1点)
(11) 母親に謝ろうとしていた。(12字) (2点)
(12) (a) オ　(b) ウ　(c) ア　(d) ク (各1点)

[出典] Gary Soto : *Mother and Daughter*
(問題作成のためのやむを得ない事情から，省略・改変した箇所があります)

[全訳]

ヨリーの母親であるモレノ夫人は変わったユーモアのセンスを持っていた。かつて "They Came to Look" という深夜映画を娘と一緒に見ていたことがあった。それは，地下世界からやってきた生き物が溶けた溶岩を登り地上に出てそこで歩き回るというものであったが，ヨリーはその日，隣の子供とサッカーを一日やっていてあまりに疲れていたため，怖いと感じることができなかった。

彼女は目を開けておくことができなかった。まぶたは閉じ，母親が恐怖のあまり叫び，平手でいすの肘掛けを強く叩いたときでさえ，閉じたままになっていた。

「ママ，私が寝られるように映画が終わったら起こしてね」とヨリーはもぐもぐ言った。

「わかったわ，ヨリー。起こしてあげる」と母親はポップコーンをほおばって言った。

しかし映画が終わると，彼女は娘を起こさず，静かに心の中で笑い，テレビと明かりを消して，忍び足でベッドに向かった。ヨリーは真夜中に起き，どこにいるのかわからなかった。少しの間，自分は死んだと思ったりもした。もしかすると，地下世界からの何かが彼女を家から連れ去り，地球の内部に彼女を運んで行ったのかもしれない。彼女は眠い目をぱちくりさせ，闇を見回しながら，「ママ，ママ，どこなの」と叫んだ。しかし，返答はなかった。聞こえたのは冷蔵庫のブーンという静かな音だけであった。

ついに，ヨリーはもうろうとした意識から覚め，自分の母親が自分を長いすに残したまま布団に入ってしまったのだと悟ったのだ。これまた母親のちょっとした悪ふざけであったのだ。

しかしヨリーは笑ってはいなかった。彼女は忍び足で母親の寝室にコップに入れた水を持って入り，それをナイトテーブルの目覚まし時計の隣に置いたのだった。

翌朝，ヨリーは叫び声で目が覚めた。母親の姿を見ると「これでおあいこね」と言った。

＊＊＊

誰もがヨリーの母親は面白い人だと思っていた。弟のラウルはナイトクラブを経営していたのだが，彼女ぐらい面白ければ芸能界に入ることもできると思っていたほどだ。しかし，ヨリーが8年生の秋のダンスパーティーに着ていくための新しい服を必要としているということはおかしくも何ともなかったのだ。それを買うだけのお金がなかった。古いシボレーのノバを修理するのにほとんどのお金をちょうど使ってしまったところであったのだ。

「お金がないのよね」服が買えないため本当に悲しい気持ちで母親は言った。モレノ夫人にできるのはせいぜいヨリーのために黒い靴と夏の白い服を黒くすることができるよう布用の染料を買うことであった。

「あなたの服を染めて新品に見えるようにしましょう」と母親は言った。彼女は黒い液体をたらいに入れ，それを鉛筆でかき混ぜた。それからゆっくりと注意深く，服をたらいに下ろしていった。ヨリーは見ているのが耐えられなかった。

しかしながら，ヨリーが驚いたことに服はきれいな黒に仕上がった。真新しく洗練されているように見えた。彼女は母親に向かってにっこり微笑んだが，母親は本当に自分を誇りに思っているように見えた。

＊＊＊

ダンスパーティーはヨリーにとっては大事なものであった。それは彼女がクラスで3番目に綴りをきちんと書けるアーニー・カスティーヨのことが好きだったからだ。彼女は入浴し，服を着て，髪と爪を整え，母親の化

粧品を少しつけた。彼女は興奮して，母親の車に跳びはねるように乗り込んだ。

モレノ夫人はヨリーを学校の前で下ろした。娘に手を振り，楽しんでらっしゃいと言い，それからうなるような音を出して走り去ったが，青い煙がノバのマフラーからたなびいていた。

ヨリーが歩いて校庭の方に行くと，ダンスパーティーが開かれていた。彼女が見た最初の人はアーニーだった。彼は彼女を待っていて，踊らないかとすぐに彼女を誘った。

「もちろんよ」と彼女は，彼の腕にほとんど身を投げ出すように答えた。

２曲速いテンポの曲で踊ったあと，チークタイムになった。木の下で回りながら踊っていると，雨が降り出した。といっても最初は小雨程度であった。ヨリーは雨滴が葉っぱにしたたる音が大好きだった。アーニーのセーターはちくちくしたけれど，彼女の頭を彼の肩にもたせかけた。彼は温かく優しく感じられた。ヨリーは彼が恋をしていること，そしてもちろん相手が自分であることがわかっていた。ダンスは首尾よくロマンチックに続いたが，ついに雨足が激しくなった。

女の子も男の子もカフェテリアに急いで入って行った。中では女の子はトイレに急ぎ，髪の毛をとかし，体を渇かした。ヨリーは鏡のところに行った。彼女は母親の化粧が落ちていたので少し顔色が悪く見えたが，他の一部の女の子ほどひどくはなかった。湿った髪をとかしたが，あまり強く引かないように注意した。彼女はアーニーの元に戻りたくて仕方がなかったのだ。

しかし，突然，あまりの恥ずかしさで顔が真っ赤になった。黒い水たまりが足元にできつつあったのだ。染料が黒い涙のように彼女の服から落ちていたのだった。彼女の服はもはや灰色になっていた。彼女は顔を上げずにトイレから駆け出し，カフェテリアを横切って，ドアの外に出た。嵐の中を泣きながら駆け抜けたが，雨と涙が混ざり合った。

彼女は家に着くと，玄関のドアをばたんと閉め，まっすぐ寝室に行った。寝室のドアもばたんと閉めた。服を脱ぐとそれを床にたたきつけた。

彼女の母親が部屋に入ってきた。「どうしたの？　この大騒ぎは何よ，ねえ？」

「この服よ。ダメよ，こんなの！」ヨリーは母親に向かってその服を蹴り，それがちょうど彼女の手に収まるのを見ていた。モレノ夫人が手を見ると，灰色の染料が手のひらの浅い線にたまっているのが見えた。かわいそうに，と彼女は思ったが，一言も言わずに彼女は居間に歩いて戻り，泣いた。

翌朝，母と娘は互いに距離を置いていた。ヨリーは昼まで古い雑誌を見ながら部屋で座っていた。それから突然立ち上がり，母親を捜しにいった。彼女は前の晩キレてしまったことについて，ばつが悪い思いがしていた。貧しいのは母のせいではないのだから。

[設問解説]

(1)　正解は**エ**の「彼女は自分が娘に対してやっているいたずらはおかしいと思った」。「モレノ夫人が独特ないたずらのセンスをしている」から本文は始まっており，また下線部(1)のあとに彼女がしたいたずらについて記述されていることから，ここでモレノ夫人が微笑んだのは「これは面白いいたずらだ」と思ったからに他ならない。

アは「彼女は娘が本当はいかに怖がっているかを隠そうとしているのはかわいいと思った」の意。「いたずら」について全く言及していないし，本文中から，娘が怖い気持ちを隠そうとしているとは読み取れないので不可。イの「彼女は娘のかわいらしい寝顔を見ているのが大好きだった」，ウの「彼女は娘が自分に頼っているということがわかってうれしかった」はいずれも「いたずら」に対する言及がなく全くの的外れ。

(2)　下線部(2)は「ヨリーは叫び声で目を覚ました」の意。登場人物は「ヨリーとその母親」なので，叫び声の主は「母親」になる。正解は**ア**の「ヨリーの母親が目覚まし時計を止めるために手を伸ばしたとき，彼女はコップに入った水をこぼした」。

イの「ヨリーは本当に怖い夢を見て，起きるときに叫んだ」とウの「ヨリーは彼女が寝ている間に彼女の母親がしたことに本当に驚いたので叫んだ」では叫んだのがヨリーになってしまうので論外。エは「ヨリーが長いすにいないため，母親が驚き叫んだためにヨリーは目を覚ました」の意だが，これでは，その前で「ヨリーが母親の寝室にコップに入れた水を持って入り，それをナイトテーブルの目覚まし時計の隣に置いた」という内容とつながらないので不可。

(3)　いたずらをやり返したヨリーのセリフなので，**イ**の「これでおあいこね」が正解。get はここでは「やっつける」といった意味。back がついているのは母親に対して「やり返した」からである。

(4)　正解は２番目：**best**，５番目：**do**。The best Mrs. Moreno could do was buy 〈a pair of black shoes for Yollie ...〉となる。The best が主語として働く名詞で，その直後は関係代名詞の省略。The best に対する動詞が was で (to) buy が補語。主部が do で終わって

いる場合，補語の to 不定詞から to が消え，補語が原形になることも多い。**(例)** All you have to *do* is (to) sign your name.（あなたは名前をサインするだけでよい）

(5) 下線部(5)は「ヨリーは見るのが耐えられなかった」の意。したがって，「なぜ母親が服を黒く染めるのを見るのが耐えられなかったのか」を答えればよい。直後の段落に「ヨリーが驚いたことに，きれいに黒に染まった」とあることから，ヨリーは「**母親が服を黒く染めるのに失敗するにちがいないと思った**」「**母が服を黒く染められるわけがないと思っていた**」ことがわかる。

(6) 正解は**ア**の「車の古さ」。Nova が何かわからなかった人もいただろうが，以前に Nova が出てきた文(They had just spent most of their money getting their old Chevy Nova repaired.）から，Nova は「修理の対象となるもの」であることがわかる。選択肢で「修理可能なもの」を含んでいるのはアしかない。

(7) 正解は **her**。be in love with ... で「…を愛している；…に惚れている」の意。仲良くロマンチックな雰囲気でチークダンスをしていることから，ヨリーは「彼は私のことが好きだ」と思ったはずである。なお，問題文では with の前に and が挿入的・追加的に入り込み「しかも」の意を加えていることに注意。**(例)** He did it in her presence.（彼はそれを彼女の前でやった）→ He did it, *and* in her presence.（彼はそれをやった。しかも彼女の前でだ）

(8)

1. **She looked a little gray**「彼女は少し顔色が悪く見えた」 gray はここでは「〈顔色が〉青白い；土色の」の意。
2. **now that ...**「…なので」 まとめて従属接続詞として働き「理由」を表す。**(例)** *Now that* I'm a senior citizen, I can ride for free on the buses.（高齢市民になったからバスは無料だ）
3. **her mother's makeup had washed away**「母親の化粧（品）が流れてしまっていた」

(9) 正解は**ウ**の「灰」。「黒く染めた服が雨に当たり何色になったのか」を考えればよい。

アの「炭」では服はまだ黒いことになるし，イの chalk では服がいきなり「真っ白」になってしまったことになりおかしい。

(10) 本文中には，母親がなぜ何も言わずに立ち去ったのかを説明している箇所はないので，消去法で解いていくしかない。娘を慰めず立ち去った理由として選択肢の中で考えられるのは，**エ**の「自分がいかに娘をかわいそうに思っているかをここで伝えても仕方がないとおそらく思ったのだろう」しかない。

他の選択肢の意味はそれぞれ次の通り。ア「彼女は，娘は現実を直視してより控えめな生活をすべきだとおそらく思ったのだろう」，イ「彼女はおそらく娘にもっと頻繁に相談してもらいたかったのだろう」，ウ「彼女はおそらく娘に何でも欲しいものを買わせるのがよいと思ったのだろう」

(11) 「ヨリーは母親を捜しにいった」と述べられていることからヨリーは母親に対して何らかの働きかけをしようとしていたと推察される。その後に「彼女は前の晩，母を非難してしまったことにばつの悪い思いをしていた。貧しいのは母のせいではないのだ」と述べられていることから，「**母親に謝ろうとしていた**」と考えるのが自然。

(12)

(a) 随所に娘を思う気持ちが表されているので，**オ**の loving が正解。

(b) 「服を黒く染めて新しい服に見せようとする」という発想は普通とは言い難いので，**ウ**の unusual を入れるのがよい。

(c)(d) ダンスパーティーの後，せっかく母が染めてくれた服を「こんな服はダメ」などと言って非難していることから，(d)には**ク**の unkind が入る。また思わずそうした発言をしてしまう理由として考えられるのは，選択肢中には「若さ」しかないので，(c)には**ア**の young が入る。